

第 71 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

- I. 日 時：2016 年 7 月 14 日（木） 13 時 30 分～17 時 10 分
II. 場 所：日本機械学会 4・5 会議室
III. 出席者：青山（東大）、櫛田（MHPS）、倉富（東電）、逢澤（MHPS 日立）、飯島（日溶協）、
大橋（中電）、山下（神鋼）、幅野（IHII）、水谷（東工大）、飯田（東電）、
原田（東芝）、川端（関電）
欠 席：長谷川（発電技検）
オブザーバー： なし
事務局： 原

IV. 配付資料

- 71-1 第 70 回溶接分科会議事録（案）
- 71-2 溶接分科会委員名簿
- 71-3 第 76 回火力専門委員会報告
- 71-4 第 78 回発電設備規格委員会議事録（案）
- 71-5 レビュー票（MHPS 日立）
- 71-6 -1 レビュー票ダブルチェック結果（Ⅶ章アーティクルⅠ、MHPS 三菱）
- 71-6 -2 レビュー票ダブルチェック結果（Ⅶ章アーティクルⅢ、MHPS 三菱）
- 71-6 -3 レビュー票ダブルチェック結果（Ⅶ章アーティクルⅡ、関西電力）
- 71-6 -4 レビュー票ダブルチェック結果（Ⅵ章アーティクル 6、日本溶接協会）
- 71-7 規格の概要説明資料（案）
- 71-8 Word のバージョンの確認結果
- 71-9 審議履歴表

V. 議事

1. 前回議事録確認 [資料 71-1]
前回議事録（案）について確認を行い、議事録（案）が承認された。
2. 分科会委員・役員の承認 [資料 71-2]
 - 出席委員全員の賛成により、大橋委員を再任候補として、次回火力専門委員会へ推薦することが承認された。
3. 報告事項 [資料 71-3]
 - (1)火力専門委員会報告
6 月 3 日開催の第 76 回火力専門委員会の主要項目が報告された。
 - 火力専門委員会委員、各分科会委員の承認。
 - 第 70 回構造分科会報告
 - ・発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況
 - レビュー票のダブルチェックの具体的な進め方、留意点の確認

- ・規格活用のための意見交換の内容紹介と今後の対応

- 審議結果報告

- ・火力設備配管減肉管理技術規格（S TB1-2009）の改訂案の規格委員会書面投票による修正案の審議・承認
- ・火力設備配管減肉管理技術規格（S TB1-2009）に係る質疑応答回答案の審議・承認。

(2)規格委員会報告

[資料 71-4]

6月8日開催の第78回発電用設備規格委員会の主要項目が報告された。

- ・火力専門委員会(6/3開催)についての報告。
- ・火力設備配管減肉管理技術規格（S TB1-2009）の改訂案の規格委員会書面投票による修正案の審議。一部再修正（年版を併記する理由を記載）し、再修正箇所をメール審議(火力専門委員会、規格委員会)することになった。メール審議可決後、公衆審査を開始する予定。

4. 審議事項

(1)レビュー票審議

1)Ⅵ章 アーティクル 4 AppendixⅦ(MHPS 日立)

[資料 71-5]

2011a から PW-52 において 'Sec V Article 4 Appendix 7' が呼び込まれているので、これを 6 章に取り入れることとする。

逢澤委員からレビュー票について説明があり、審議を行った。コメント等は以下のとおり。

- Ⅶ-420

- ・flaw … 欠陥 → [きず](#)

- Ⅶ-423

- ・認定を受けた UT 要員 … 他の箇所との整合性を確認する。

- Ⅶ-431

- ・引用コードセクション → 引用している章 などに見直す。

- Ⅶ-434.2.4

- ・試験する厚さ 6mm 又は 25% → 6mm 又は試験する厚さの 25%

- Ⅶ-485

- ・SAFT 処理 → SAFT 処理(開口合成)

(2)レビュー票ダブルチェック結果

1)進め方

- 今回はチェッカーからダブルチェックの結果を説明していただくが、次回からはダブルチェックの結果を反映したレビュー票を、担当者が説明する。
- チェッカー 2 人のチェックが完了したものを、レビュー票に反映する。チェッカーは、ダブルチェックが完了したら、担当者、三役、事務局にダブルチェックの完了をメールにて連絡する。必要により、チェッカーと担当者間で内容確認等の連絡を行う。

2) レビュー票ダブルチェック結果(Ⅶ章アーティクルⅠ、MHPS 三菱) [資料 71-6-1]
樺田委員が、ダブルチェック結果を説明した。

○QW-300

・体積試験、体積検査・・・確認する。

3) レビュー票ダブルチェック結果(Ⅶ章アーティクルⅢ、MHPS 三菱) [資料 71-6-2]
樺田委員が、ダブルチェック結果を説明した。

4) レビュー票ダブルチェック結果(Ⅶ章アーティクルⅡ、関西電力) [資料 71-6-3]
川端委員が、ダブルチェック結果を説明した。

5) レビュー票ダブルチェック結果(Ⅵ章アーティクル 6、jwes) [資料 71-6-4]
飯島委員が、ダブルチェック結果を説明した。

■飯島委員のダブルチェックのように、チェッカーメモ欄にコメントの趣旨や修正理由を記載すると分かり易いので、以後この方法を標準とする。

■用語集をメンテナンスしていく。

・事務局が用語集を CS キャビネットの分かりやすい場所に保存する。

・分科会開催時に、用語集をアップデートする。

6) レビュー票ダブルチェック結果(Ⅵ章アーティクル 7、中部電力) [資料 71-6-5]
大橋委員が、ダブルチェック結果を説明した

(3) 規格の活用について [資料 71-7]

樺田委員が JSME 規格活用のメリットを説明し、意見交換を行った。主要な意見は、以下のとおり。

- ・原子力以外の発電設備の保安規制は、設備設置者の保安力で差別化する方向にあり、保安力のあるところは、自社の技術力を生かしてやり易い方法を導入できるような仕組みに変わっていく。このような新しい技術を活用する手段として、機械学会の規格の活用を考えるべき。
- ・ASME がベースになっているとは言え、自分たちが使いやすい規格を作っていくべきである。
- ・ASME ボイラーの発電設備としての輸入においては、容量の小さいものについては手続きが容易になることが期待できるので、まず、この方面で規格が活用されるようになると思われる。
- ・ASME がベースとなっており骨格の部分は変えられないが、コストや品質の観点から、新しい技術や検査装置などを導入することは可能である。
- ・メーカーの新しい設備などを規格に取り入れれば、安全上のメリットだけでなく、その会社のメリットにもなり、規格策定活動への理解も深まるのではないかと。
- ・事業者の立場では、ASME ボイラー等の輸入は個別に対応してメリットは感じない。自由化の流れの中では、コストダウンに係るメリットの方が望ましい。
- ・規格の無いインドネシアなどについては、JSME 規格の移転・導入についても可能性があるかもしれない。

■三役にて、本日に議論も踏まえ規格の概要の資料(ppt2 枚程度)の素案を作成して
次回分科会にて審議する。

(4) B31.1 材料のグループ番号の記載について

飯田委員から、JESC 委員会時のコメント対応「B31.1 材料のグループ番号の記載
について」の説明があった。引続き、当課題の検討状況を情報共有していく。
資料は、フォルダに保存。

(5)原稿作成における Word のバージョンについて

[資料 71-8]

事務局より、各委員の使用している Word の調査結果について報告があった。

- ・調査結果より、基本的には Word2010 を採用する。
- ・Word2007 年以降、罫線や割付機能などがダウングレードしているようなので、
周りに詳しい方がいれば、次回情報提供していただく。

VI. 次回開催予定

- ・日時：2016 年 10 月 17 日（月）13 時 30 分から
- ・場所：日本機械学会 3,4 会議室

以 上